

# 教員養成課程における情報社会の特性を意識させた教材開発演習の取り組み

阿濱 茂樹

山口大学 教育学部  
ahama@yamaguchi-u.ac.jp

長谷川 元洋

金城学院大学 国際情報学部  
ghase@kinjo-u.ac.jp

村田 育也

福岡教育大学  
ikuyam@fukuoka-edu.ac.jp

河野 稔

兵庫大学 健康科学部  
kawano@hyogo-dai.ac.jp

情報教育に関わる教科教育の中で、情報メディアの特性を理解した上で、情報モラル教育の教材開発を効果的にを行うことを目的に、教員養成課程の教職実践演習において、情報社会の特性を意識した教材開発を行う演習を試みた。実際には、様々な視点からメディアの特性を確認するグループディスカッションを行い、得られた知見に基づき指導計画の立案を行うワークショップを試みた。

## 1. はじめに

高度情報社会の中で生活する児童・生徒にとって、刻々と変化するメディアへの接し方を適切に学ぶことは欠かすことができない要素である。また、学校教育の中で様々なメディアを活用した学習指導が浸透しつつある中で、指導者はメディアの特性を十分に理解して教材研究や指導法の検討を行うことが求められている。

そこで、本研究では先行研究<sup>(1)</sup>に基づき、情報メディアの特性を指導者自ら分析しつつ学習指導に活用する教育実践研究を試みた。

## 2. 情報メディアの特性

本研究では、情報社会に参画する態度を育成するための学習を指導する際に、取り上げられているいくつかの情報メディアの特性について、6つの観点に分類した。その概要を表1に示す。

表1 情報メディアの特性

匿名性	情報の受発信者が特定されにくい性質
個別性	情報の価値は個々によって差異がある性質
劇場性	情報の受発信にともない注目されやすい性質
不完全性	情報の信ぴょう性や信頼性に差異がある性質
散漫性	情報の価値や意味が移ろいやすい性質
依存性	情報の受発信に伴う行動に依存しやすい性質

## 3. 教育実践

本研究における教育実践では、教職課程の学生の情報社会の捉え方（子どもに指導する際の着眼点）について解説した上で、表1に示すメディアの特性について確認するワークショップを行い、それに基づいた学習指導案を作成する取り組みを行った。

実際の学習は、教職課程での出口科目と位置づけられる教職実践演習において行った。受講生は中学校技術・家庭科（技術分野）もしくは高等学校情報科の教員免許取得希望者である。

教育実践の結果、受講生の多くは自らの経験を踏まえつつ、情報メディアの特性を情報社会の中で起こっている出来事に当てはめて、中高生に学習指導する指導案の提案および学習教材の検討を行うことができた。中には、中高生の世代に近い感覚で事例を取り上げ、ケーススタディを提案する受講生も見られた。

今後の課題として、情報メディアの特性をより科学的な視点で説明できる資料を用意し、メディアリテラシーの観点から教育実践を試みる必要性があると考えられる。

## 謝辞

本研究はJSPS 科研費 26590226 の助成を受けたものです。

## 参考文献

- (1) 村田育也：子どもと情報メディアー子どもの健やかな成長のための情報メディア論ー，現代図書(2011)。